

新しいミサ式次第〔会衆用〕

カトリック福山教会

開祭

入祭の歌 立つ

会衆が集まると入祭の歌を歌う。その間に、司祭は奉仕者とともに祭壇へ行く。祭壇への表敬の後、司祭は席に向かう。入祭の歌が終わると、司祭は会衆に向かって次のことばを唱え、司祭と信者は自分に十字架のしるしをする。

父と子と聖霊のみ名によって。

会衆 アーメン。

あいきり

司祭は手を広げて、会衆にあいきりする。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが皆さんとともに。

会衆 またあなたとともに。

回心の祈り

司祭はたどまは次のようなことばで、一回を回心へと招く。

皆さん、聖なる祭儀を行う前に、わたしたちの罪を認め、ゆるしを願います。

短い沈黙の後、一回は手を合わせて頭を下げ、一般告白の式文を一緒に唱える。

全能の神と、

兄弟姉妹の皆さんに告白します。

わたしは、悪いことば、行い、怠りによってたびたび

罪を犯しました。
聖母マリア、すべての天使と聖人、そして兄弟姉妹の皆さん、

罪深いわたしのために神に祈ってください。

続いて、司祭は罪のゆるしを祈る。

全能の神、いつくしみ深い父がわたしたちの罪をゆるし、

永遠のいのちに導いてくださいますように。

会衆 アーメン。

いつくしみの賛歌(キリエ)

先唱 主よ、いつくしみを。

会衆 主よ、いつくしみをわたしたちに。

先唱 キリスト、いつくしみを。

会衆 キリスト、いつくしみをわたしたちに。

父の右に座しておられる主よ、いつくしみをわたしたちに。

ただひとり聖なるかた、すべてを越える唯一の主、

イエス・キリストよ、

聖霊とともに父なる神の栄光のうちに。

アーメン。

集会祈願

司祭は手を合わせたまま言う。

祈りましょう。

一同は司祭とともにしばらく沈黙のうちに祈る。続いて、司祭は手を広げて集会祈願を唱え、会衆は結びにはりきりと唱える。

会衆 アーメン。

先唱 主よ、いつくしみを。
会衆 主よ、いつくしみをわたしたちに。

栄光の賛歌(グロリア)

規定に従って、一同は栄光の賛歌(グロリア)を歌うかまたは唱える。

天には神に栄光、

地にはみ心にかなう人に平和。

神なる主、天の王、全能の父なる神よ。

わたしたちは主をほめ、主をたたえ、

主を拝み、主をあがめ、

主の大いなる栄光のゆえに感謝をささげます。

主なる御ひとり子イエス・キリストよ、

神なる主、神の小羊、父のみ子よ、

世の罪を取り除く主よ、いつくしみをわたしたちに。

世の罪を取り除く主よ、わたしたちの願いを聞き入れてください。

「ごごば」の典礼

第一朗読 座る

朗読者は朗読台に行き、第一朗読を行う。朗読の終わりを示すため、朗読者は手を合わせてはりきりと唱える。

朗読者 神のみことば。

一同 神に感謝。

続いて、朗読者は聖書に「礼して席に戻る。

一同は沈黙のうちに、神のごごばを味わう。

答唱詩編

詩編唱者あるいは先唱者は詩編を歌うかまたは唱え、会衆は答唱する。

第二朗読

朗読者は朗読台に行き、第二朗読を行う。朗読の終わりを示すため、朗読者は手を合わせてはつきりと唱える。

朗読者 神のみことば。

一同 神に感謝。

続いて、朗読者は聖書に「礼して席に戻る。
一同は沈黙のうちに、神のことばを味わう。

アレルヤ唱詠唱) 立つ

一同は起立し、アレルヤ唱詠唱を歌う。

福音朗読

助祭あるいは司祭は言う。

すべての主日と守るべき祝日には説教が行わる。他の日にも勧められる。

信仰宣言 立つ

すべての主日と祭日、およびより盛大に祝われる特別な祭儀に、一同は以下のいずれかの信条を歌うかまたは唱えて信仰宣言を行う。

ニケア・コンスタンチノーブル信条

わたしは信じます。唯一の神、

全能の父、

天と地、見えるもの、見えないもの、

すべてのものの造り主を。

わたしは信じます。唯一の主イエス・キリストを。

主は神のひとり子、

すべてに先立って父より生まれ、

神よりの神、光よりの光、まことの神よりのまことの神、

主は皆さんとともに。

会衆 またあなたとともに。

○○○による福音。

会衆は助祭あるいは司祭とともに、額、口、胸に十字架のしるしをして、はつきりと唱える。

会衆 主に栄光。

福音朗読が終わると、助祭あるいは司祭は朗読福音書を両手で掲げてはつきりと唱える。

主のみことば。

一同 キリストに賛美。

説教 座る

造られることなく生まれ、父と一体。

すべては主によって造られました。

主は、わたしたち人類のため、

わたしたちの救いのために天からくだり、

以下、「人となりました」まで一同は礼をする。

聖霊によって、おとめマリアよりからだを受け、

人となりました。

ポンティオ・ピフトのもとで、わたしたちのために十字架につけられ、

苦しみを受け、葬られ、

聖書にあるとおり三日目に復活し、

天に昇り、父の右の座に着いておられます。

主は、生者と死者を裁くために栄光のうちに再び来られます。

その国は終わることがありません。

わたしは信じます。主であり、いのちの与え主である聖霊を。

聖霊は、父と子から出て、父と子とともに礼拝され、栄光を受け、また預言者をおして語られました。

わたしは、聖なる、普遍的、使徒的、唯一の教会を信じます。

罪のゆるしをもたらす唯一の洗礼を認め、死者の復活と

来世のいのちを待ち望みます。アーメン。

または、使徒信条

天地の創造主、

全能の父である神を信じます。

父のひとり子、わたしたちの主

イエス・キリストを信じます。

以下、「おとめマリアから生まれ」まで一同は礼をする。

主は聖霊によつてちぎり、

共同祈願(信者の祈り)

共同祈願すなわち信者の祈りを行う。会衆は各意向の後に応唱もしくは沈黙の祈りをもつて祈りを自分のものとする。

司祭の結びの祈りの後に会衆ははつきりと唱える。

会衆 アーメン。

感謝の典礼

供えものの準備

ことばの典礼が終わると奉納の歌が始まる。その間に、奉仕者が感謝の典礼に必要なものを祭壇に準備する。信者の代表はパンとぶどう酒、その他の供えものを運び、司祭は祭壇に行き、パンを載せた、パナ

おとめマリアから生まれ、

ボンナイオ・フラトのもとで苦しみを受け、十字架につけられて死に、葬られ、

陰府に下り、

三日目に死者のうちから復活し、

天に昇つて、

全能の父である神の右の座に着き、

生者と死者を裁くために来られます。

聖霊を信じ、

聖なる普遍的教会、

聖徒の交わり、

罪のゆるし、

からだの復活、

永遠のいのちを信じます。アーメン。

を取り、両手で祭壇上に少し持ち上げ、次の祈りを小声で唱える。

神よ、あなたは万物の造り主。

ここに供えるパンはあなたからいただいたもの、

大地の恵み、労働の実り、

わたしたちのいのちの糧となるものです。

奉納の歌を歌わない場合、司祭はこの祈りをはつきりと唱え、結びに会衆ははつきりと唱えることが出来る。

会衆 神よ、あなたは万物の造り主。

助祭または司祭は、ぶどう酒と少量の水をカリスに注いで静かに唱える。

この水とぶどう酒の神秘によつてわたしたちが、人となられたかたの神性にあずかることができますように。

司祭はカリスを取り、両手で祭壇上に少し持ち上げ、**次の祈りを小声で唱える。**

神よ、あなたは万物の造り主。

ここに供えるぶどう酒はあなたからいただいたもの、
大地の恵み、労働の美り、
わたしたちの救いの杯となるものです。

奉納の歌を歌わない場合、司祭はこの祈りをはっきりと唱え、結びに会衆は**はつきりと唱えることかでき**る。

会衆 神よ、あなたは万物の造り主。

その後、司祭は深く頭を下げ、**静かに唱える。**

神よ、心から悔い改めるわたしたちが受け入れられ、
きよつ、み前に供えるいけにえも、み心にかなうものと
なりますように。

座る

奉納祈願

司祭は手を広げて奉納祈願を唱え、会衆は**結びには
はつきりと唱える。**

会衆 アーメン。

第二奉獻文

司祭は奉獻文を始める。

司祭 主は皆さんとともに。

会衆 またあなたとともに。

司祭 心をこめて、

会衆 神を仰ぎ、

司祭 賛美と感謝をささげましょう。

会衆 それはどういふ大切な務めです。

続いて、司祭は祭壇の脇で手を洗い、**静かに唱える。**

神よ、わたしの汚れを洗い、罪から清めてください。

司祭は祭壇の中央に立ち、会衆に向かって手を広げ、
次の招きのことばを述べてから手を合わせる。

皆さん、ともにささげるこのいけにえを、

全能の父である神が受け入れてくださるよう祈りま
しょう。

会衆は立つて答える。

会衆 神の栄光と賛美のため、

またわたしたちと全教会のために、

あなたの手を通しておささげするいけにえを、
神が受け入れてくださいますように。

一同はその後、しばらく沈黙のうちに祈る。

聖なる父よ、

最愛の子イエス・キリストを通して、

いつどこでもあなたに感謝をささげることば、
まことにどういふ大切な務めです。

あなたはみことばによってすべてをお造りになりました。
た。

みことばである御子は、

救い主、あがない主としてわたしたちに遣わされ、

聖霊によって人ととなり、おとめマリヤから生まれ、
み旨を果たして、人々をあなたの聖なる民とするた
めに、

手を広げて苦難に身をゆだね、

死を滅ぼして復活の栄光を現してくださいました。

わたしたちは声を合わせて歌います、

天使とすべての聖人とともに、

あなたの栄光をたたえて。

感謝の賛歌サンクトゥス

叙唱の終わりに、会衆は司祭とともに感謝の賛歌サンクトゥスを歌うか、はつきりと唱える。

聖なる、聖なる、聖なる神、すべてを治める神なる主。

主の栄光は天地に満ち。

天には神にホザンナ。

主の名によって来らるるかたに賛美。

天には神にホザンナ。

司祭は手を広げて唱える。

まことに聖なる神、すべての聖性の源である父よ、いま、聖霊を注ぎ、

この供えものを聖なるものとしてください。

わたしたちのために、

主イエス・キリストの御からだに、御血になります

あなたがたと多くの人のために流されて
罪のゆるしとなる新しい永遠の契約の血(である)。

これをわたしの記念として行いなさい。」

司祭がカリスを示した後、会衆は司祭とともに手を
合わせて深く礼をする。続いて、司祭は唱える。

信仰の神秘。

会衆は以下をはつきりと唱える。

会衆 主よ、あなたの死を告げ知らせ、復活をほめた
たえます。

再び来られるときまで。

司祭は手を広げて唱える。

聖なる父よ、

ように。

主イエスはすすんで受難に向かう前に、
パンを取り、

感謝をささげ、裂いて、

弟子に与えて仰せになりました。

「皆、これを取って食べなさい。

これはあなたがたのために渡される

わたしのからだである。」

司祭がホステリアを示した後、会衆は司祭とともに手
を合わせて深く礼をする。

食事の後に

同じように杯を取り、

感謝をささげ、弟子に与えて仰せになりました。

「皆、これを受けて飲みなさい。

これはわたしの血の杯、

わたしたちはいま、主イエスの死と復活の記念を行
い、
み前であなたに奉仕できることを感謝し、
いのちのパンと救いの杯をささげます。

キリストの御からだと御血にともにあずかるわたし
たちが、

聖霊によって一つに結ばれますように。

世界に広がるあなたの教会を思い起こし、
教皇○○○○、

わたしたちの司教○○○○、

すべての奉仕者とともに、

あなたの民をまことの愛で満たしてください。

死者のためのミサの場合は、次の祈りを加えることが
できる。

(きょう)「世からあなたのもとに召された
○○○○を心に留めてください。
洗礼によってキリストの死に結ばれた者が、
その復活にも結ばれますように。」

また、復活の希望をもって眠りについたわたしたちの
兄弟姉妹と、

あなたのいつくしみつつもに亡くなったすべての人を
心に留め、

あなたの光の中に受け入れてください。

いま、ここに集うわたしたちをあわれみ、

神の母おとめマリアと聖ヨセフ、

使徒とすべての時代の聖人とともに、

永遠のいのちにあずからせてください。

御子イエスキリストを通して、

あなたをほめたたえることができますように。

司祭は、たとえば次のようなことばで会衆を主の祈りに招く。

主の教えを守り、みことばに従い、つつしんで主の祈りを唱えましょう。

会衆は司祭とともに唱える。

天におられるわたしたちの父よ、

み名が聖とされますように。

み国が来ますように。

みこころが天に行われるとおり地にも行われますように。

わたしたちの口ごとの糧を今日もお与えください。

わたしたちの罪をおゆるしください。わたしたちも人をゆるします。

わたしたちを誘惑におちいらせず、

悪からお救いください。

司祭は手を広げたまま一人で続ける。

司祭はホステイアを載せたパテナとカリスを手に取り、高く掲げて唱える。

キリストによってキリストとともにキリストのうちを、
聖霊の交わりの中で、

全能の神、父であるあなたに、

すべての誉れと栄光は、世々に至るまで、

会衆ははつきりと唱える。

会衆 アーメン。

交わりの儀(コムニオ)

主の祈り

いつくしみ深い父よ、すべての悪からわたしたちを救い、

世界に平和をお与えください。

あなたのあわれみに支えられて、罪から解放され、

すべての困難に打ち勝つことができますように。

わたしたちの希望、救い主イエスキリストが来られるのを待ち望んでいます。

会衆ははつきりと唱える。

会衆 国と力と栄光は、永遠にあなたのもの。

教会に平和を願う祈り

司祭は手を広げてはつきりと唱える。

主イエスキリスト、あなたは使徒に仰せになりました。
「わたしは平和を残し、わたしの平和をあなたがたに

与える。」

主よ、わたしたちの罪ではなく、教会の信仰を顧み、おこしはのとおりに教会に平和と一致をお与えください。

あなたはまことのいのち、すべてを導かれる神、世々ユークレ。

会衆 アーメン。

平和のあいさつ

司祭は会衆に向かって手を広げ、次のことばを述べらる。

主の平和がいつも皆さんとともに。

会衆 またあなたとともに。

状況に応じて、助祭または司祭は次のように続ける。

パンが裂かれている間に、平和の賛歌（アニェス・デイ）を歌うか、または唱える。

世の罪を取り除く神の小羊、いつくしみをわたしたちにした。

世の罪を取り除く神の小羊、いつくしみをわたしたちにした。

世の罪を取り除く神の小羊、平和をわたしたちにした。

パンを裂くために時間がかかる場合、何度か繰り返すことができる。最後に「平和をわたしたちに」で結ぶ。

拝領

司祭は静かに唱える。

生ける神の子、主イエス・キリスト、

あなたは父のみ心に従い、聖霊の力に支えられ、

互いに平和のあいさつを交わしましょう。

一同は平和と一致と愛を示すために、地域の慣習に従って互いにあいさつを交わす。日本では手を合わせ、「主の平和」と言って互いに礼をすることができらる。

パンの分割

司祭はホスティアを取って、パテナの上で裂き、小片をカリスの中に入れて、静かに唱える。

いま、ここに一つとなる主イエス・キリストの御からだと御血によって、

わたしたちが永遠のいのちに導かれますように。

平和の賛歌（アニェス・デイ）

死を通して世にいのちをお与えになりました。

この聖なるからだと血によってすべての罪と悪からわたしたちを解放し、

あなたのおきてをいつも守り、

あなたから離れることのないようにしてください。

司祭は手を合わせて深く礼をしてから、ホスティアを取り上げ、パテナあるいはカリスを添えて、会衆に向かってはらきりと唱える。

世の罪を取り除く神の小羊。

神の小羊の食卓に招かれた人は幸い。

会衆は司祭とともに以下を唱える。

主よ、わたしはあなたをお迎えするにふさわしい者ではありません。

おこしはをいただくだけで救われます。

司祭は祭壇に向かい、静かに唱える。
キリストの御からだは、永遠のいのちの糧になりますように。

そしてキリストの御からだを拝領する。
司祭がキリストの御からだを拝領している間に、拝領の歌を始める。

続いて、司祭はカリスを手に取り、静かに唱える。
キリストの御血が、永遠のいのちの糧になりますように。

そしてキリストの御血を拝領する。

その後、司祭は拝領者に近づき、ホステアを取って
拝領者一人ひとりに示して言う。

キリストの御からだ。

拝領者 アーメン。

拝領者はホステアを受けると、すぐにすべてを拝領して席に戻る。

座る

聖体の授与が終わると、司祭はパテナをふき、カリスをすすぐ。その間に、司祭は静かに唱える。

主よ、口でいただいたものを清い心をもって受け入れることが出来ますように。

このたまものによつて、永遠のいのちの糧が出来ますように。

拝領後、一同はしばらく沈黙のうちに祈る。適当であれば、詩編か他の賛美の歌、もしくは賛歌を歌うことが出来る。

拝領祈願 立つ

司祭は祭壇または自分の席で会衆に向かって立ち、手を合わせて言う。

祈りましょう。

一同は司祭とともにしばらく沈黙のうちに祈る。続いて、司祭は手を広げて拝領祈願を唱え、会衆はその結びにはっきりと唱える。

会衆 アーメン。

閉祭

お知らせ

必要があれば、会衆への短いお知らせが行われる。

派遣の祝福

続いて派遣の祝福が行われる。司祭は会衆に向かって手を広げて言う。

主は皆さんとともに。

会衆 またあなたとともに。

司祭は会衆を祝福して唱える。

全能の神、父と子と聖霊の祝福が、皆さんの上にありますように。

会衆 アーメン。

一定の日や状況によっては、上記の祝福の前

に、典礼注記に従って他のより荘厳な祝福、あるいは「会衆のための祈願」が行われる。

司教が司式するミサでは、司式司教はミトラを着け、手を広げて唱える。

司教 主は皆さんとともに。

会衆 またあなたとともに。

司教 主のみ名がいつもたたえられますように。

会衆 いまよりとじえた。

司教 主のみ名はわたしたちの助け。

会衆 主は天地の造り主。

司教 全能の神、父と子と聖霊の祝福が皆さんの上にありますように。

会衆 アーメン。

閉祭のことは

助祭または司祭は手を合わせて会衆に向かって言う。

感謝の祭儀を終わります。

行きまじょう、主の平和のうち。

会衆 神に感謝。

閉祭と同じように、司祭は奉仕者とともに祭壇に表敬してから返堂する。他の祭儀が続く場合、派遣の式は省かれる。